

令和4年度全国学力・学習状況調査 三郷市の調査結果分析と今後の方策例

主な成果（○）と課題（▲） 全国差：全国平均正答率との差

小 学 校 理 科

全体の結果（正答数分布グラフ等からの分析）

- 平均正答率は、67.0％である。
- 平均正答数は、11.4問/17問であり、全国を上回る。※全国10.8問/17問
- 市の平均正答率は、全国差+3.7％である。

学習指導要領の区分・領域、評価の観点、問題形式別結果

- 学習指導要領の区分・領域「A区分」、「『粒子』を柱とする領域」では、全国差+6.5％である。
- 評価の観点「知識・技能」では、全国差+6.2％である。
- 問題形式「短答式」では、全国差+7.9％である。

問題別結果（正答率、無回答率からの分析）

- 2**－（1）「メスシリンダーという器具を理解している」では、全国差+18.0％である。
- 4**－（2）「予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができる」では、全国差+7.3％である。
- 3**－（1）「日光は直進することを理解している」では、全国差+5.1％である。
- 3**－（4）「実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる」では、全国差+4.8％である
- 市の平均無回答率は1.2％であり、全国の平均無回答率3.6％を下回る。

今後の方策例（※**3**－（4）を例に）

「実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できるかどうかをみる」

令和4年度 全国学力・学習状況調査報告書（国立教育政策研究所）より

観察、実験などで得た結果について分析して、解釈し、より妥当な考えをつくりだすことができるようにする

- 観察、実験などで得た結果について分析して、解釈し、より妥当な考えをつくりだすことができるようにするためには、結果を事実として分析して、解釈し、それを結論の根拠として表現できるようにすることが重要である。

指導に当たっては、結果の具体的な数値や、それを分析した内容などを根拠として表現する場面を設定することが大切である。例えば、問題に対するまとめを行う際に、結果を具体的な数値として学級内で共有し、何を結論の根拠としているのかを明らかにし、より妥当な考えをつくりだす学習活動が考えられる。その際、結果を基に結論の根拠を記述することが難しい場合には、結論の根拠の記述例を示し、適切なものを選ぶことができるようにすることも考えられる。

（参照）

「平成30年度【小学校】授業アイデア例」 pp. 15-16

https://www.nier.go.jp/jugyourei/h30/data/18idea-psci_01.pdf

